

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい児通所支援事業所 ちゅらハウス2号館		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日 ~ 令和8年2月27日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日 ~ 令和8年2月27日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援員や保護者に対してペアトレを行っている	ペアトレ会の開催日をお便りやSNSを通して連絡し、また、ポスターを作成し貼っている	保護者には月一回のお便りとSNSを使い周知をする。支援員に対してはミーティング等で知らせていく。
2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、訓練を行っている	毎月内容を変えて訓練を行っている。指定避難場所までの経路確認を行っている。時には予告なしで行い、普段している訓練がどれだけ身につけているかの確認もしている	大規模災害も想定した訓練を行う
3	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮ができていないこと	利用児・保護者それぞれに適した方法で行っている。保護者に関しては連絡帳や電話・メールを通している	子ども・保護者の状態を確認しつつ、その都度あった配慮を行っている

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	完全バリアフリーではない事	車椅子がギリギリ通る出入口(門の幅)と、スロープが高い。車椅子が変更になった時、改善されている場所がスムーズに使用できるかが課題。	車椅子の幅の確認などを行うこと
2	保護者交流会が少ない事	計画を立てても、保護者への周知度が低いこと	月一回のお便りやSNSを活用し周知する
3	学童クラブや児童館と交流する機会が少ない	交流する場所が決まっていること	交流する場所(児童館など)を増やしていく